

機関番号：14301
 研究種目：研究活動スタート支援
 研究期間：2009～2010
 課題番号：21820024
 研究課題名（和文） グアテマラ先住民調査の歴史と米国人類学会における民族誌的権威の誕生に関する研究
 研究課題名（英文） The history of the anthropological fieldworks about the Indigenous People in Guatemala and the Establishment of authority of ethnographic monograph in the American Current Anthropology
 研究代表者
 中田 英樹 (NAKATA HIDEKI)
 京都大学・大学院文学研究科・研究員
 研究者番号：70551935

研究成果の概要（和文）：2009年度は、グアテマラ国立サン・カルロス大学農学部シルベル教授と研究グループを組織し、ワークショップを展開した。その成果は、同教授と共編での『先住民農民の親密な社会と資本主義国家統合—二十一世紀グアテマラにおいて「発展」を考えるための試論集』という著書として発表した（スペイン語）。また、「農学部における多文化と多民族諸関係」と題した出版記念シンポジウムを組織した。

2010年度は、年間計四回を数える国際学会などで引き続き研究成果を発表した（英語・スペイン語）。

研究成果の概要（英文）：In 2009, I coordinated the research group with the workshops under the collaboration of professor S. Elias, the faculty of Agriculture, the University of San Carlos, Guatemala. As the final achievement, as the joint editor with the professor Silvel, I edited the book with the title "Intimate Society of Indigenous Campesinos and National Integration of the Capitalist State," and organized the symposium as the publish ceremony (in Spanish, Guatemala).

In 2010, I made my research presentation at the international conferences and the invited speech in four times in total for making discussion about my research (in Spanish or English).

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,080,000	324,000	1,404,000
2010年度	970,000	291,000	1,261,000
年度			
年度			
年度			
総計	2,050,000	615,000	2,665,000

研究分野：人類学

科研費の分科・細目：文化人類学、民俗学

キーワード：マヤ系先住民、国家統合、人類学的現地調査、民族史的権威、現地調査媒介者

1. 研究開始当初の背景

1930年代に米国シカゴ大学人類学部のロ

バート・レドフィールドやソル・タックスを中心とする人類学者が、中米グアテマラの中

西部山岳地帯に広がるマヤ系先住民村落を重点調査した(1934-1941)。ほとんど注目されたことのないこの調査だが、じつは米国現代人類学史上においては、「参与観察法」を用いたもっとも初期の調査のひとつだった。すなわち、1920年代にイギリスにおいてラドクリフ＝ブラウンやマリノフスキーによって形成されたイギリス機能主義と、一方での同じしか五大学だが社会学部において開花していたシカゴ社会学派の影響を受け、かつての古き良き太古の文化を歴史的に訴求し復元しようとする当時のフランツ・ボアズ歴史学派の影響を受けた米国人類学界において、現在進行形の「未開」社会を客観的に「知る」ための現在にも引き継がれている新たな米国人類学が、ひとつにはこの調査にて試みられたのである。

本研究は、このグアテマラにて展開された上記人類学チームの調査そのものを対象に、米国人類学がどのように誕生し、形成されたのかということ、実際にフィールドワークの展開された現場においてたどり直し、議論することを最大の目的として開始された。実際にこの調査が現地でどのように可能となったのか。いかなるデータが採取され持ち帰られ、選択あるいは排除され、後年へのいかなる影響につながったのか。この米国現代人類学へ残した、上記調査の多大な影響をはかることが本研究の背景であった。

2. 研究の目的

学会誌上ではなく人類学が実践される「未開」の現場において、人類学の科学としての権威を備えた客観性というものが、どのように発生してくるのかを考えることが、本研究の目的であった。これは、現在の私たちが「未開」社会を科学的客観的にどのように「理解」しているのかを、まったく新たな角度から批判的に自己対象化することも射程に入れている。

3. 研究の方法

本研究の方法の第一は、このグアテマラ先住民諸村落を調査したシカゴ大学からの調査団が、1930年代に実際に現場で取り交わしていた書簡や調査日記を収集・閲覧し研究するという資料研究である。ロバート・レッドフィールドとソル・タックスはシカゴ大学に、また彼らの学徒であったベンジャミン・ポールはスタンフォード大学に、それぞれ遺稿として時には数百箱に及ぶフィールドノート

や、書簡、調査日記を残している。これらをチェックすることで、当時の調査期間中に、いかなる論点が議論され、問題視されていたのかを明らかにする。本研究第二の方法は、これら村落にて聴き取り調査をとりわけ老人を対象におこなうことである。村の老人、とりわけ尊重や当時の学校の先生には、かつての村の歴史を知るものがまだ存命である。こうした方々に、先述のシカゴ大学人類学者が調査していた当時、村の歴史はどういった状態にあったのかを、一方での実際の村の歴史を、現地のオーラル・ヒストリーのレベルから再構築させつつ、先述のシカゴ大学などに残された史料データと相互参照させる。

4. 研究成果

現在、人文書院から、これら成果をとりまとめた単著を準備中である。すべて書き終え、現在編集担当と構成の見直しや文体、表現の検討段階にある。また同時におなじく、申請者が2007年度から09年度まで所属した、グアテマラでの独立法人の研究機関 AVANCSO (グアテマラ社会科学振興協会) の発行する「招待著者シリーズ」より、スペイン語版の単著を発表する確約を取り付けた。こちらも現在、スペイン語での初校を書き終えた段階で、現地のグアテマラ人の専門校閲者のチェックがすんだ段階である。

また、これら単著としての最終成果完成へと至る過程において、日本の学界から成果を発信することにも力を注いだ。おもには、年間計四回を数える国際学会などでの研究成果発表である(英語・スペイン語)。フィリピンでのアジア農村社会学会やメキシコでの「グローバル化と移動労働」をテーマとした国際シンポジウムなどである。また、申請者が本科研二年目から所属した京都大学大学院文学研究科のグローバルCOEプログラムが主催する国際ワークショップでは、開催におけるさまざまな役割を担当するとともに、申請者自身も研究を口頭発表した(英語)。

さらには、次に説明するグアテマラでのシルベル博士との共編著出版を記念して、「農学部における多文化と多民族諸関係」と題したシンポジウムを組織した。

2009年度は、研究対象たるグアテマラにおいて、グアテマラ国立サン・カルロス大学農学部のシルベル教授および大学院生十数名とグループを組織し、継起的なワークショップを展開し議論を深めた。1996年に内戦に一応の終止符を打ったグアテマラでは、それま

でさげすまれ、抑圧され、除去あるいは近代化へ強化・改善されるべきとされてきた先住民のはぐくんできたマヤの伝統文化は、二十一世紀にいたって観光産業で国家再建をもくろむグアテマラ政府にとって、最大の観光客を呼び込み外貨を獲得するための「目玉商品」として転化した。この政府が先住民に対して求める、国家発展のためのまったく新たな動員恫喝の眼差しおよび国家統合の圧力のもとで、はたして農村部に暮らす先住民たちには、どのような発展の選択肢が新たに期待可能となったのか。あるいはどのような新たな抑圧や差別、搾取の危険性に晒されることとなったのか、こうしたことを議論するためのワークショップである。

2009年1月より、正式に広報し開催した計3回のワークショップに加えて、非公式でも継起的に集まり、議論を交わした。その成果は、先述のグローバルCOEプログラムの出版助成を受けて、中田英樹とシルベル・エリアス教授が共編者となり、『先住民農民の親密な社会と資本主義国家統合—二十一世紀グアテマラにおいて「発展」を考えるための試論集』というタイトルにて最終成果（スペイン語）として公刊した。同サン・カルロス大学農学部教授や、同コースの博士候補生、グアテマラ国内の他の大学教官たち計七名が、それぞれ上記テーマに即した論考を寄稿し、それらをまとめた論集である。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計0件）

〔学会発表〕（計4件）

- ① Nakata, Hideki. 2010. （および同タイトルでのプロシーディング・英語）“Traditional” Eco-Museum of the Indigenous People in the New Public Sphere under Multi-culturalism: A Case Study of Mayan Indigenous Community in Post-Internal Conflict”, *The 3rd Next-Generation Global Workshop Migration: Global Reconstruction of Intimate and Public Spheres*, Global Center of Excellence for Reconstruction of the Intimate and Public Spheres in 21st Century Asia, December 11-12, Kyoto University, Kyoto, Japan.
- ② Nakata, Hideki. 2010. （上記共編著の出版記念シンポジウム・スペイン語）“Las

investigaciones sobre campesinos indígenas, desafíos y alcances”, *Diálogo multidisciplinario sobre Multiculturalidad y relaciones interétnicas en la Facultad de Agronomía*, en Auditorio del CEMA, Edificio T-14, 2nd Nivel, viernes 29 de octubre, La Universidad de San Carlos de Guatemala, Guatemala City, Guatemala.

③ Nakata, Hideki. 2010. （および同タイトルでのプロシーディング・スペイン語）“Análisis sobre la Situación de Obreros Extranjeros en Japón después de la Crisis Económica en Estados Unidos: Estudio del caso de los inmigrantes brasileños de origen japonés en la prefectura de Shiga”, *2nd Coloquio Internacional sobre Globalización y Migración*, October 11-12, San Cristbal de las Casas, Chiapas, México.

④ Nakata, Hideki. 2010. （および同タイトルでのプロシーディング・英語）From “Men of Maize” to “Men of Coffee”: Integrating the Mayan Indigenous Culture in the 21st Century Multiculturalism in Guatemala, Asian Rural Sociology Association, 4th International Conference, *The Multidimensionality of Economy, Energy and Environmental Crises and their Implications for Rural Livelihoods*, September 6-10, Legazpi City, Philippines.

〔図書〕（計1件）

- ① 共編著（スペイン語）Eliás, Silvel y Nakata Hideki (eds.) 2010. *Sociedad íntima de campesinos indígenas e integración nacional del Estado capitalista: Un texto para el debate sobre el desarrollo rural en Guatemala para el siglo XXI*, Guatemala: Serviprensa, p. 231. （『先住民農民の親密な社会と資本主義国家統合—二十一世紀グアテマラにおいて「発展」を考えるための試論集』、Serviprensa、グアテマラ・シティ、232ページ）
- ※ 中田は序章「イントロダクション（*Intruducción*）」を共編者のシルベルと共同執筆、および第七章「『開発』と『発展』の狭間から（*Entre “Desarrollar-se” y “desarrollar desarrollo”*）」を単独執筆 179-231 ページ

〔産業財産権〕

○出願状況（計 0 件）

○取得状況（計 0 件）

6. 研究組織

(1) 研究代表者

中田 英樹 (NAKATA HIDEKI)
京都大学・文学研究科・研究員
研究者番号：70551935